

拓水

600号記念特別号

TAKUSUI
10・11

2006年 October・November

No.600・601合併号



拓水600号発刊記念座談会「50年の歴史を繕いて…」

TOPICS
News

JF仮屋・JF釜口・JF浦3組合が合併仮契約調印

経営危機突破!水産基本政策の確立を求める全国漁民大会開催される

CONTENTS

2 旬に想う
横書きと縦書き
表紙の言葉

3 TOPICS Part1
・JF兵庫漁連代表理事会長就任のあいさつ
・JF仮屋・JF釜口・JF浦 3組合が合併仮契約調印

4 NEWS
・経営危機突破！
水産基本政策の確立を求める全国漁民大会開催される
・“兵庫県漁業協同組合連合会
30年記念誌刊行される”
・“森は海の恋人”中播磨県民みどり祭り開催される

6 拓水600号発刊記念座談会
「50年の歴史を繙いて…」

8 TOPICS Part2
・「JFグループ兵庫 組織強化構想」の進捗状況について
・但馬地区JF共済推進協議会主催による
三重県先進地視察研修会実施!!

大輪田塾だより

9 兵庫JCC通信 <生協>
REPORT
・平成18年度兵庫県のり養殖技術研修会

10 兵庫JCC通信 <JA>
REPORT
・平成18年度兵庫県のり養殖安定対策協議会開催

11 行事予定

12 拓水50年のあゆみ

表紙の言葉



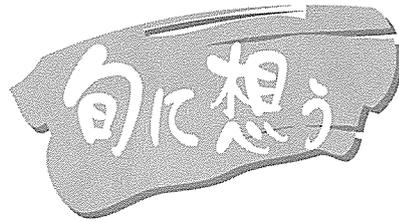
— かに漁解禁準備 —

香住町小型紅かにかご船8隻が、明日9月1日の解禁に向けて仕掛けの準備を行っている。

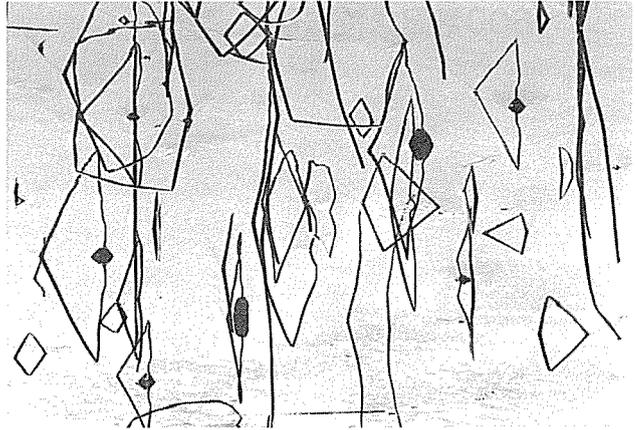
憩いの場の浜は、この日だけは独特な雰囲気にも包まれ、皆真剣な顔つきになる。

1年の漁をかけて“よーいドン”で漁場競争を行い、地元ではちょっとした風物詩である。

— どの船も大漁で安全であります様に —



写真と文 遊方子



横書きと縦書き

◆アルファベットは左から右へ横書きして、縦書きにするとはまず無い。同じ横書きでもアラビア語やヘブライ語、ロシア語は右から左へと書く。今、世界の文字のうち横書きのものは、右から左へ書くものと、左から右へのものの二種類だが、古代の小アジアでは進行方向が一行ごとに左右逆転したものがあつたという。第1行は右から左へ進み、2行目は左から右へと進む。こうした表記方法が、牛に鋤をつけた昔の農作業のようだから、プストロフエドンと呼び「牛耕式」と訳されている。書棚の本を探すとき、背文字の横文字は実に読み難いものでタテヨコ自在な漢字標記は、実に便利な特性だなど改めて思う。

◆タテヨコ自在の「漢字」も、通常は縦書きで上から下へと書き、右から左へ行替えしながら書いて行く。漢字が、いつどこで発生したかは、詳しく判つてはいないが、中国の歴史博物館に展示されている、殷(いん)の時代(前千三百年)前千年頃)の文字が、現存する最古の漢字だそう。その時代、政治形態は宗教的な色彩が濃く、国家の重要事項も占いで判断をしていた。占いには亀の甲羅や獣骨を使い、急激に加熱し其処に出来たヒビ割れから、神の託宣を読み取つたという。占いの結果を文字にして刻んだ。最古の漢字は、甲羅に五種類の文が彫つてあり、四種類の文章は右から左へ縦書き、あとの一種が左から右への縦書きというが、其

の理由は分かつていない。

◆最近、日本で作られる文章は横書きが多くなっている。しかし、縦書きのものも決して少なくない。一般書物や手紙、葉書類は、通常は縦書きされるし、新聞や週刊誌など雑誌類の殆ども縦書きである。テレビ番組や戯曲、漫才の台本は、縦書きと決まつており、ニュースの原稿も縦書きだという。それは、横書きでは視線の動きが悪くて読み難いためという。将来もこれは変わらないだろう。数年前まで人気があつたワープロは、アメリカで開発された機械だから、日本人向けに縦書きへ改良するため、大変な苦労があつたそう。今では機器自体が製造中止となり昔語りになった。

◆通常、書籍類は縦書きで右から左へ組まれて印刷される。明治十年代、初めて横書きにした数学書が出版された。植字工は縦書きに慣れているため、活字が横向きになつた箇所が目立ち、読者からの苦情が多かつたという。昭和二十二年十一月三十日の毎日新聞。その日付は漢数字で右から左へ書かれているが、翌日の十二月一日から左から右へと変更し、表示も漢数字から算用数字へと変えられた。横書きなら、算用数字の方が判り易い。何事も機能的に変わる世だから、印刷物の全てが横書きになる日が来るかも知れない。



JF明石浦組合長 小松 司氏

JF兵庫漁連代表理事会長
就任のあいさつ

去る10月10日(火)に3団体共通理事会・監事会が開催され、10月末を以て辞任されたJF兵庫漁連丸一芳訓前代表理事会長の後任として、11月1日付けで新しくJF明石浦小松司組合長が就任されました。小松会長は「会員をはじめ系統団体、県当局のご指導、ご協力を仰ぎながら、この厳しい漁業環境の舵取り役をおこなうとともに県漁連の事業運営に邁進していく決意であります。

現在、漁業者においては魚価安や資源の減少さらに燃油の高騰等により漁家経営はもとより、漁協経営においても厳しい状況にあります。このように閉塞した漁業界を活性化するためには、水産の窮状を肌で知っている者を国政の場に送り込み、国を動かす必要があります。前会長であった丸一芳訓氏が国政に参加するための候補者として、全漁連をはじめ大日本水産会等オール水産の推薦を受け、県漁連会長を辞任して不退職の決意をもって活動を開始いたしました。全国的にオール水産が一丸となつて丸一前会長を国政に送るための活動を展開しており、兵庫の漁業者の結束力が試される状況となっております。

また、油の高騰に加え県漁連の経営内容の悪化や業務体制の批判等から、漁業者ならびに漁協は、全般的に県漁連離れが進行しつつあり、その回復が急務となっております。私が明石浦漁協で職員としておりましたこともあり、漁業者のことでなく漁協の現在おかれている状況、漁業者・漁協の系統団体に対する考え方を出来る限り反映したいと考えております。

つきましては、丸一前会長を国政に送る全国活動に参加し、兵庫県下でオール水産のもと兵庫の漁業者の結束力の強さや心意気を全国の漁業者に知らしめるための活動を展開し、国政に参加できるように努めます。

また、引き続き施策の基本を『漁業者のために』と位置付け、漁連離れを防ぐための取り組みとして、経済事業の収支を改善し経営の安定を図っていくとともに、積極的に漁協の巡回を行い、漁協の要望等をすばやく入手し、その対応に込められる漁連に変えていきたいと考えておりますので、皆様には現在の漁連の状況を十分ご理解いただき、ご協力をいただきますことを心からお願いたしました。と、今後の抱負を述べられました。

JF仮屋・JF釜口・JF浦 3組合が合併仮契約調印

去る、平成18年9月25日(月)16時30分より淡路市東浦総合事務所において、JF仮屋・JF釜口とJF浦の合併仮契約調印式が開催されました。

JF仮屋 山口組合長より、組織強化により足腰の強い組合づくりを目指し確実に一歩ずつ前進していけるようになるため、合併を決意したとの主催者挨拶があり、続いてJF兵庫漁連より合併仮契約書朗読の後、JF仮屋・JF釜口・JF浦の各役員をはじめ、県・市行政関係者他多くの来賓者が出席のもと、淡路市門市長・JF兵庫漁連 戸田専務両氏を立会に迎え、合併仮契約書に調印が行われました。

調印式の後、西村衆議院議員はじめ来賓より、祝辞が述べられました。引き続き、JF釜口 松下組合長より平成19年1月1日新組合スタートに至る、合併までのスケジュールの確認があり、盛会裏に調印式が終了しました。



経営危機突破!

水産基本政策の確立を求める全国漁民大会開催される



去る10月4日 東京虎ノ門パス トラルに全国の 漁業者1800 名が集結し、「経営危機突破! 水産基本政策の確立を求める全国漁民大会」がJ F全漁連、漁業基本対策推進本部、WTO・FT

み分けの原則に基づく調整問題の早期解決」の2項目を求め、満場一致で承認された。この後、自民党の所信表明として、鈴木俊一水産総合調査会長より、「漁業者はかつてない窮地に立たされている。本日の決議を踏まえ自民党もこの窮地を打開するため全力を挙げて政策支援をし、日本の漁業を守っていく」、また、常田享詳水産部会長は、「次期参議院選は、自公対民主の1対1の対決になる。今こそ水産政治力を結集して、丸一候補を国政の場に送り、真の浜の声を国会に送ってほしい。自民党も丸一候補を自民党公認として全面的に支援する」と挨拶した。

A対策特別推進本部の主催で開催され、本県からは系統及び海区の代表45名が出席した。来賓として自民党から鈴木俊一水産総合調査会長、常田享詳水産部会長をはじめ水産関係議員が多数出席した。

開会にあたり、主催者であるJF全漁連植村会長より挨拶が述べられた後、水産基本政策の確立に関してJF白糠柳谷法司組合長が資源の持続的利用体制の確立に関してJF殿原町棧原靖重組合長がそれぞれの地域の現状を踏まえて意見表明が行われた。続いて基本政策に関する大会決議としてJF全漁連櫻庭武弘副会長が「新たな経営安定政策の創設」、「漁業金融円滑化政策の拡充」、「多面的機能増進支援政策の創設」の3項目を、資源の持続的利用体制の確立に関する大会決議としてJF全漁連木村稔副会長が「資源状況に見合った生産構造の確立」、「す



大会の後、「水産政治力結集に向けた全国漁民大会」に移り、JF全漁連宮原邦之専務から次期参議院選挙に向けて

の丸一候補者擁立の経過報告と経緯の説明が行われ、植村会長から候補者推薦の言葉と兵庫県の漁業者にとつて大切なリーダーを全国オール水産の代表と

基本政策の確立に関する決議

資源状況の悪化や魚価の低迷に加え、引き続き燃料価格の高騰により、わが国漁業は危機的な状況に追い込まれ、その存続すら危ぶまれる状況にある。近年に予定されている水産基本計画の見直しや指定漁業許可の一斉更新などを契機として、漁業・漁村の再生に向けて水産施策を抜本的に強化し、政府民一体となって思い切った構造改革に取り組みなければならない。政策の基本を方向づけ、柱となる政策を実現するためには政府の力が是非とも必要である。今こそ浜の力をついに、来年度の参議院選挙への対応をほしめ、浜の叫びを直接国政に届ける運動をさらに強化していかねばならない。ついでに、水産政治力を結集し、下記政策の実現を図ることを、全国漁業者の総意としてここに決議する。

- 1. 新たな経営安定政策の創設**
将来にわたり安定供給体制を確かなものとしていくため、漁業生産と漁村活性化の中核となる担い手の育成、確保に係る抜本的な政策を確立する必要がある。政府政策の拡充に加え、収入・所得の減少から担い手の経営を守る新たな経営安定政策を創設すること。
- 2. 漁業金融円滑化政策の拡充**
自然変動に左右される漁業生産を支え、経営の安定に欠かすことのできない漁業金融を円滑化させるため、融資保証・保険の制度及び運用の大幅な拡充を図ること。
- 3. 多面的機能増進支援政策の創設**
環境・生態系の保全など、国民生活・経済の安定に大きな役割を果たしている水産業・漁村の多面的機能をさらに増進するため、漁業集落の共同取組活動に対する交付金制度を創設すること。

2006年10月4日

水産基本政策の確立を求める全国漁民大会

資源の持続的利用体制の確立に関する決議

水産基本法は、水産物の安定供給等の理念を実現するための基礎として、資源の適切な保存管理と持続的利用を掲げた。しかしながら、資源状況は悪化を続け、魚価低迷と相まってわが国漁業は危機的な状況に追い込まれている。資源と漁獲努力量の不均衡を解消し資源の回復を図るとともに、沿岸・沖合漁業が補強し、問題の生じている海域の事態を解明し、共存構造を構築することが漁業の再生のために必要である。ついでに、次期指定漁業許可の一斉更新において下記事項が実現するよう、政府・国会に強く要請することここに決議する。

- 1. 資源状況に見合った生産構造の確立**
資源と漁獲努力量等に関する正しい見直しに基づく構造展望を明示し、これを許認可に反映させることにより、資源状況に見合った生産構造を早期に確立すること。また、操業実態を踏まえ、許可体系の見直しを図ること。
- 2. 積み分けの原則に基づく調整問題の早期解決**
沿岸・沖合漁業が補強し、資源の先獲り競争や紛争が長期にわたって継続している海域問題について、漁場の面的な統合を画策する積み分けの原則に基づき、国・都道府県の積極的な関与により協議を促進し、早期解決を図ること。

2006年10月4日

水産基本政策の確立を求める全国漁民大会

して擁立することに対してのお詫びと協力への感謝が述べられた。

次期参議院選挙の推薦候補者として所信表明に立ったJF兵庫漁連丸一会長は「疲弊した全国の浜の状況、浜の声を国政に反映させ、普通の漁師が普通の生活ができるよう国政の場で、命がけでがんばりたい」と決意表明があった。大会終了後、大会決議の実現を求め、大会会場の虎ノ門パスから日比谷公園までデモ行進を行った。また、デモ行進と並行して、政府・自民党に対する要請活動が行われた。

“兵庫県漁業協同組合連合会30年記念誌刊行される”

去る9月1日、兵庫県漁業協同組合連合会が設立30周年を迎えました。そこで本県漁業とともに歩んできた当連合会の協同組合理念の実践経過を記録にまとめ、将来に歴史を引き継ぐこと、このたび30年記念誌が発刊されました。

合併した昭和51年当時は、波乱と激動の40年代も終わり世の中も落ち着きを見せ始め、高度経済成長から国民生活水準が急速に向上する中、漁業界においては200海里問題等新海洋法時代が到来、一方で臨海工業地帯の開発が進み、漁業者が公害問題に翻弄される多難な時代であり、漁業者からも漁協組織の強い結束が求められ、本県漁業界の発展を期して旧県漁連・内海漁連・但馬漁連が合併しました。

地区漁連の合併、そして新生兵庫県漁業協同組合連合会の設立を契機に、瀬戸内海と日本海という全く環境が異なる海で生業してきた漁協あるいはその所属員は相互理解を深め、協同・連帯して漁連とともに漁業振興に努力し、県漁連も幾多の困難に直面する中、指導事業・経済事業の伸長を成し、漁協系統組織の中核団体として、本県漁業の振興にその役割を果たし、また、本県漁業は、独自の文化・伝統を守りながら、今日では国内有数の水産県としての地位を確立する迄に発展してきました。

合併後の漁連が年輪を重ねつつ、漁業振興に一定の役割を果たしてこられたのは、国、県また本県漁協関係者の暖かいご理解と強力なご支援を得てきた賜であり、県下漁業者のための様々な事業展開に従事してきた当連合会の役員達で築かれた三十年の歴史は長く波乱万丈であり、それぞれの時代に生き、懸命に事業活動を支えてこられた県漁連役員各位、先輩諸兄の不断の努力と勇気に基づくもので、心から敬意を表するものです。

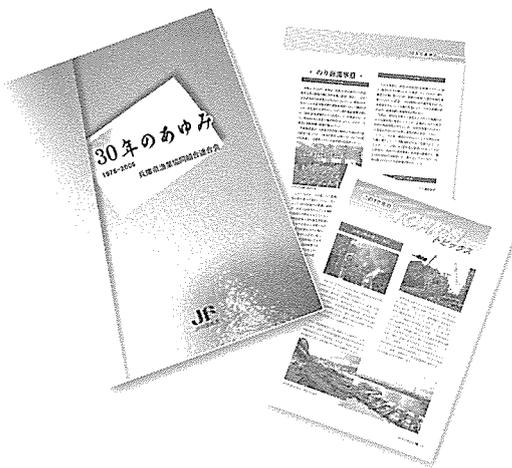
現下の漁業界は漁業経営の存続に大きな暗雲がたちこめています。失われつつある豊穡の海、海苔の色落ち問題、輸入水産物の大量流入によ

る魚価の低落離れていく消費者、原油の高騰等時代の変遷に伴い本県漁業に対する様々な問題に直面しています。

また、地域漁業の中核として漁業者の生産活動を支えてきたJFは、経営存亡の事態に直面しており、系統団体においてもその経営は厳しく、まさに生き残りをかけて抜本的経営改革を迫られています。

兵庫県漁業協同組合連合会設立30年を契機として、本県漁業の将来安定と兵庫県漁民の幸せ実現に向けて、総ての漁業関係者や団体が心一つにして新しい漁業社会の構築に全力を尽くすよう、心より祈念するものであります。

この30年記念誌の編集にあたっては、「資料として残せるもの」「読んでもらえるもの」「写真も多く入れる」の三点を基本方針とされ、巻末には当連合会がこれまで編集してきた「兵庫県水産沿革史」「内海漁連20年誌」「但馬の漁業変遷」「水協法施行30年記念誌」「兵庫県漁連10年のあゆみ」「兵庫県漁連20年のあゆみ」等の記念誌をCD・ROMに保存して添付されています。この30年記念誌が兵庫県漁業にとって参考の礎となりますよう心よりお祈りします。



“森は海の恋人”中播磨県民みどり祭り (めぐみの森づくり「植樹育樹」大会)開催される



「森は海を、海は森を恋いながら、悠久よりの愛つむぎゆく、熊谷龍子さんのこの詩に象徴されるように、森と海は悠久の昔から密接な関係にあり、豊かな海は自然豊かな森に育てられてきたものです。」

近年、本県でも「豊かな海づくり運動」の二環として、漁業者による植樹育樹活動が盛んになっており、県漁青連や女性連では毎年、県下各地で植樹育樹や下草刈り等に汗を流しながら活動を続けています。今年も4月に三木山公園での植樹に始まり、8月豊岡「ウノトリ公園」下草刈り、10月28日千種高原下草刈りがそれぞれ実施され、また、11月18日には南淡町・牛内ダムでの下草刈りが予定されており、インターネットによる一般報と相俟って、一般県民からの参加もあり、漁業者の自主活動が徐々に県民運動に広がっています。

一方、県においても、森・川・海の再生に向けて「新兵庫の森づくり」を重要施策に掲げ、森林管理100%作戦、里山林の再生、森林ボランティア育成などに取り組むとともに、災害に強い森づくりを目指し県民局単位で様々な活動が行われています。特に、中播磨県民局では平成12年から毎年「恵みの森づくり」植樹活動を継続開催され、漁業者の森づくり活動とともに地域に根付いた運動に定着してきています。

今年も同県民局は、全国育樹祭を契機に制定された「めぐみの森の日」に合わせて、去る10

月29日「中播磨県民みどり祭り(めぐみの森づくり)植樹育樹大会」を姫路市林田町上伊勢、里山林・伊勢岩屋の森「周辺」で開催し、姫路地区緑の少年団やJF坊勢役員、一般県民等約300人が参加しました。参加した子供たちや同伴父親らは、森のインストラクターらの指導を受けながらヤマザクラ、ケヤキ、ナツ等苗木70本余りが植樹し、順調に育てば、再来年の春には桜の花見が出来るかもと期待に胸を膨らませていました。また、JF坊勢等漁協からの参加者は、緑の少年団とともに会場からさらに奥地に入り間伐作業に従事し、直径25cmを越える檜の切り倒しに悪戦苦闘の半日体験となりました。

お昼は地元自治会などの協力で山菜御飯の炊き出しや餅つき、漁協提供のエビ等「バーベキュー」など盛り沢山で賑やかに行われ、みんな満足した昼食交流会となりました。地元農家の方の「餅つき」に、坊勢から参加の役員のおんが「坊勢式の餅搗き」で一気に「臼」を搗き上げ、地元の皆さんから拍手喝采を受けるなど「暮もあり、植樹育樹活動が森・川・海の住民をつなぎ、交流の絆を深める重要な役割を果たしていることが改めて認識されました。」

今、漁業者が生業している海は、環境面・資源面で大変厳しい状況にあります。「森は海の恋人」を合言葉に漁業者自ら森を育て、豊かな海と資源を次の世代に引き継ぐため、この活動がさらに広がることを願っています。



「50年の歴史を綴いて…」



田寺伸彦氏
元(財)兵庫県栽培漁業協会
専務理事



高尾正義氏
元 兵庫県漁業協同組合連合会
指導部専門課長



秋武 宏氏
兵庫県信用漁業協同組合連合会
代表理事会長



戸田氏懿氏
兵庫県漁業協同組合連合会
専務理事

藤澤 文(記録・撮影)
(財)兵庫県水産振興基金
宗和貴光(記録・撮影)
(財)兵庫県水産振興基金

※役職は9月21日現在

皆さん表紙をご覧下さい。いつもと違う何かにお気付きになりましたか。実は今月号が記念すべき拓水発刊600号なのです。600という中途半端な号数ですが、よくよく考えてみると、1年間は12ヶ月。毎月発行として、そつです今年が拓水創刊より50年目の年になります。そこで、拓水に縁のある方々にお集まりいただき、拓水と掲載された記事の時代背景についてじっくりお話いただきました。

秋武 まず、「拓水」の由来は何でしょうか。なかなか、いい題ですよ。

高尾 そつですね。素晴らしい字体ですよ。

藤澤 タイトルは、以前会長をされていた、三浦清太郎さんが書かれたと聞いたことがあるのですが。

田寺 拓水は漁連が出来る以前からあった。川越敬一さんという方がいらつして、その方がやつとつた。当時「拓水会」という会が水産課にあって、そこから取つたもんやないかな。各組合にも送付されつたようやが、実質、川越さん一人がやつつて、県が「そんなもん一人で行つてられるか」つていふんで、漁連に無理矢理押しつたというのが実態ちゃうか。

戸田 しかし、当時の漁連はそんなに金がなかつたはずですが、後に発行することになる改良普及協会ができるより先に拓水が漁連に来てますな。

秋武 28年に漁業権証券を出しているからその金があることはあつたと思う。改良普及協会も最初の頃は金があつたと思つが、どちらにしても、当時からかなりのお金をかけていたのは間違いないですよ。

藤澤 創刊当初は一部10円の値段がつけられて

いました。当時の10円はかなり高いと感ずるんですが、ページ数からみても、価値があつたのではないですよ。

田寺 当時の10円は高かつたと思つて。第3種郵便で送つていたから付けていただけという説もあるが。

藤澤 当時は、恐らく活版印刷で、ページ数も多く、素晴らしいものですよ。

田寺 ガリ版刷りではなく活版印刷やつたわ。

秋武 それじゃ、かなりのお金はかけていたんですよ。

戸田 拓水が漁連へ来たときはどなたが担当されていたんでしょうか。

田寺 会長の三浦清太郎氏が、かなり力を入れてくれつたのは事実。私が水産課時代も、「田寺、われに拓水編集委員を命ずる」という辞令をもらったんや。これは誰でもかかれてももらええるモンちゃうで。辞令をもらったんは水産試験場の杉本氏と水産課からは私、田寺だけや。命じられ時は、「年俸は100万円」と言われた。今からでも良いから、利子付けて…。

秋武 当時は、確か大卒の初任給は1万数千円位ではなかつたですか。それでも家賃は払えなかつたりした時代でしたな。

戸田 漁連では編集していたのは佃さんあたりでしょうが。

田寺 船木氏、岡氏、県漁連の林氏あたりが良く面倒を見てくれた。佃さんは声が大きくて、首頭取りをやつとつたな。

戸田 県の方の取材はどうされてましたか。

れを書け」と言われて色々書いていた。そして、明石の水産試験場にも取材によく行つたんですが、行つたときは駅までの間に一軒寄つて、飲んで帰ることが多かつた。明石の取材といえば飲みに行くという感じやつたですわ。

秋武 私もよく連れて行かれた。帰りがけに一杯飲んで帰り、明石発9時の電車に乗つて、乗り換えて帰る予定が、乗り過つて京都まで行つたことがよくあります。

藤澤 海づくり協会の榎並部長が田寺さんの原稿をなくされ、「この馬鹿者！」つて、ものすごく怒られた記憶があるつておつしてました。

田寺 これは有名な話。

藤澤 結局、何ヶ月か経つて、机の引き出しの奥の方から小さくなつて出てきたらしいですよ。

戸田 高尾さんが編集に関わりを持つたのはいつ頃からですか。

高尾 私が関わりを持つたのは実質、平成4年頃からでしょうが。

戸田 今もお世話になっていますが、私はなぜこの人をもつと早く、編集委員にさせなかつたのかと悔やんでいます。

田寺 世間では、出来もせんのに目立ちたがりが多いですが、私はこの紙面を読んで、高尾さんは決して表に出ず、「能ある鷹は爪隠す」で、目立ちたがらん男ですな。

戸田 但馬へ出張があつて、高尾さんとご一緒したんです。その時、絵を描かれていたがそのうまさにびつくりした。文書だけではなく絵までもうまい。この時、編集の話を見せていただいた。私らが書けば、どうしても公文書になつてしまふ。

田寺 漁師なのに文書がうま、しゃべらせてもうまかつたのが平岡安民さん。淡路の佐野の方だつたと思つ。県に踊らされて、長崎県の対馬へ県外出漁に行つたが、結局、出漁は尻すばまりになつてしまつた。

戸田 拓水では普及事業・栽培漁業の記事も多数掲載されていますが。

秋武 普及事業・栽培漁業には大きく貢献してきたのではないのでしょうか。所で、「栽培漁業」という言葉は試験場長をされていた内橋さんが最初に言った言葉、農業用語からの造語ですが。栽培漁業の始まりは兵庫県やったと思う。

藤澤 「ラジオ拓水」という言葉が紙面に出てきますが

田寺 当時、ラジオ番組で「農林水産の時間」やったか、番組をやったわ。農林水産やから魚ばかりではないけど、それを聴いてくださいという記事やないかと思う。「光る魚礁」とかいって、魚礁に電気を付けて沈め、魚を集めるやつ。あんまり効果はなかったみたいやが、そんな宣伝もやっとな。私、田寺もタレントとして出演しとったんや。

戸田 のりの成長期と重なるが。当時はどうでしたか。

田寺 森本さん 田寺 浜口さん、そして、業界では森吉さん。全国で天皇賞をとって、これが縁で皇室に献上していた。しかし、賞を獲っても水産庁は「兵庫県ののりが獲れるんですか。干潟も浅瀬も無いじゃないですか」と兵庫を馬鹿にしとった。そこで、浜口さん森本さん私で、水産庁に強く陳情し、兵庫県の赤穂にのりの採苗場を作るからということで補助金をもらった。その後、山内さん等がええ仕事をして、ここまで普及した。

戸田 昭和35年に網干で共販が始まった。糸状体の培養に成功したのが昭和40年ごろで、44年ごろから浮き流し養殖が始まった。45年から冷凍アミ。52年に全自動が普及し始めた。

秋武 昭和42、3年にイギリスのドリュエーさんののりの夏場の生活史を発見してからは大きく変わった。山内さん森茂さん、森吉さんが大きな貢献をした。

藤澤 当時の紙面では出稼ぎ、女性の内職の案内も載っていましたね。

田寺 そうそう。当時はそういう時代やった。冬の淡路の西浦は特にそうやったな。夏は良いが、冬は皆、土木作業に出ていた。逆に但馬へ行けば、冬は力二で良いが、夏場がアカンかった。ところが、但馬は夏場にイカを獲り出し、内海はのりをした。内海、但馬ともども周年操業ができるようになった。作花さん

がよくその辺の事を書かれていましたな。

戸田 私が漁連に来たときは、すでに今の冊子の形であった。しかし、一時期タブロイド版になったことがあった。タブロイド版になったのは、壁に掲示しやすいようにというのをどこかで聞いたことがある。形が変わったというのはあるが、書き方も変わったような気がする。当初の冊子は、書き手の心があつたような気がする。新聞版では過去にあったことをメインに書いており、本当の新聞になっていたように思う。書き方もずいぶん変遷があつた。

田寺 今、読めばタブロイド版が変わってからは、ソフトから、なんだかドライになっているな。

戸田 書き手の心で思い出したんですが、田寺さんに、初夢を書けといわれ漫画を描いた記憶がある。描くのも難しいものですよ。

秋武 私は、当時の青専務に「水産試験場は結果ばかり書かずに、これから先、どうなるかを書け。漁業者が望むのはこれからどうなるかや」と良く言われた記憶がある。

戸田 単なる記録紙なのか、情報提供していくものなのか問われた時があつた。このころ編集者が一番苦労した時期ではないでしょうか。

藤澤 2ヶ月遅れは当たり前という時期もあつたみたいですね。2月分一緒に送る月もあつたと聞いたことがあります。よく3種郵便を取り消されそつになつたという話を編集担当だった基金協会の松野さんが話してました。

高尾 私がやりだしたころは、編集委員は私だけでした。私が全部書いたときもありました。

戸田 高尾さんは写真もすべて自分で取っているんですよ。

高尾 そうです。

田寺 これだけの紙面を埋めるのも大変。佃さんは「ウメキチ」と言われてましたわ。埋め草を書く人も重要ですね。

高尾 私がやりだしたのは平成8年から。私に代わったときも遅れ遅れで一番最初の号は2ヶ月分出しました。記事は自分で今までストックしてあるものがあつたので役立てました。

藤澤 「ユウホウシ」の由来は何ですか。

高尾 UFOからとつたんです。ユウの時は当初はさんずいへのユウを使いたかったのですが、常用漢字に当時は無かつたので今の「遊ぶ」のユウの字にしました。

戸田 40年代後半、拓水の記事に油事故のことが載っていました。元々、拓水には生々しい記事は載せていなかったと思うんです。この辺から拓水は広報誌でありながら、何か主張的なものも載せていたのではないのでしょうか。

秋武 環境問題に関する考えも、この頃から活発になってきましたね。

戸田 当時PCB問題で高砂のカネカに淡路の漁民が船団を組んで抗議に行ったことを思い出します。排水溝に土嚢を持っていつて塞いだりしてましたね。その先頭をぎつていたのが、前漁連会長小川会長だったんです。当時は非常に暴力的な時代であつたと思います。

秋武 環境問題、栽培漁業等々、兵庫県は瀬戸内海でも先進的な県でした。

戸田 油事故の時、暮れも押し迫つた時に、淡路の丸山の対策本部で漁業者が、魚を獲って生業をしているのに油事故のせいで「正月に魚が無い」といった言葉に非常に悲しみを感ぜました。記事を読むとその頃を思い出しますね。

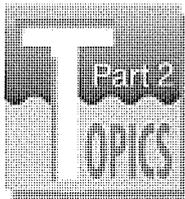
田寺 今日、私は高尾さんに会えたのがうれしかった。記事は拝見してましたが一体どういう男かとすつと思つてましたよ。

藤澤 日光印刷の方も「この文書は、ここだけにとどめておくのは勿体ない」とおっしゃっていました。

田寺 素人がやっているのに600回穴あけずに続けてきた。これはとにかく素晴らしいことやわ。全国的に見てもこんな県はないと思う。

高尾 全国の機関誌を色々、見てきましたが、歴史もさることながら、内容も素晴らしいですね。兵庫の財産として誇れるものですよ。

この後も、拓水に関してだけではなく、思い出話やこれからの業界について、話に花が咲きました。楽しくもあり、非常に勉強になった貴重な時間でした。本当に「ありがとうございます」



JFグループ兵庫・経済事業改革JF設立推進委員会における 「JFグループ兵庫 組織強化構想」の進捗状況について

平成18年4月に設立されました同委員会は、平成18年5月の常任委員会、計画策定のためのJF調査を経て、「経済事業改革JF」の計画策定(青写真づくり)の検討に入っており、平成18年10月には計画の方向性をお示すべく協議がなされております。

そして、計画策定には、分野ごとに部会(分野別検討部会:組織検討部会、購買事業検討部会、販売事業検討部会、指導・系統事業検討部会)を設け、各JF組合長、県担当者を交え、協議を行っております。

まず、組織検討部会につきましては、平成18年7月18日に第1回の部会を開催し、経済事業改革JFの基礎となる部分の協議を行い、7月28日の「兵庫県漁業協同組合長懇談会」にて、その内容を再現した「公開協議」を行いました。その後、第2回(平成18年8月3日)、第3回(平成18年8月19日)と協議を行い、方向性をお示しする段階まで進んでおります。

次に、購買事業検討部会ですが、第1回(平成18年8月10日)、第2回(平成18年8月25日)において、合併後の購買事業のあり方についての協議がなされ、第3回(平成18年9月22日)において方向性の取り纏めがなされました。

また、販売事業検討部会につきましては、第1回(平成18年8月11日)において、同部会の委員である組合長の所属JFでの販売事業の現状・問題点を抽出し、第2回(平成18年9月12日)において鮮魚販売・直売・加工事業の方向性の取り纏めがなされ、第3回(日時未定)において、のり販売、カキ養殖事業についての方向性が示される予定です。

最後に、指導・系統事業検討部会につきましては、第1回(平成18年9月5日)において、指導・系統事業の方向性の協議がなされ、第2回(平成18年9月21日)において方向性の取り纏めがなされました。

今後の推進活動としましては、平成18年11月に「第2回 JFグループ兵庫・経済事業改革JF設立推進委員会」の開催を予定しております。そこで、各部会より示されます計画(青写真)の方向性が決定されますと、各部会において具体的な計画策定へと進んでいく予定としております。(今回の設立推進委員会における進捗状況につきましては、設立推進委員会推進室発行の「推進室だより」の内容と一部重複している部分があります。なお、「推進室だより」は同委員会の進捗状況等を随時お知らせするものであり、各JF・系統団体宛にEメール・FAXにて送信しております。また、JF兵庫漁連のホームページからでもご覧いただけます。)

但馬地区JF共済推進協議会主催による 三重県先進地視察研修会実施!!

去る10月16日から17日の2日間にかけて、但馬地区JF共済推進協議会(会長 浜坂町漁協 熊本組合長)主催による先進地視察研修会(8名参加)が実施されました。今回の先進地視察の目的は、大型合併漁協であります、くまの灘漁協及び鳥羽磯部漁協の2漁協における共済事業実施体制の構築方法や普及推進方策などについて研修し、但馬地区漁協合併に向けてより強固な



実施体制作りを目指すものです。両漁協とも共済事業においては、全国的にも常に上位に位置する名実共に先進的な漁協であることから今回の視察先として選定したものです。

主な研修内容は、①合併時の組織体制構築方法②共済事業自立化に向けての方策③職員のモチベーション維持の具体的方法など多くの案件について忌憚のない意見交換が行われました。

又、研修は共済事業のみに留まらず、直販事業や販売事業など総合的な漁協運営の観点からより実践的なものとなりました。

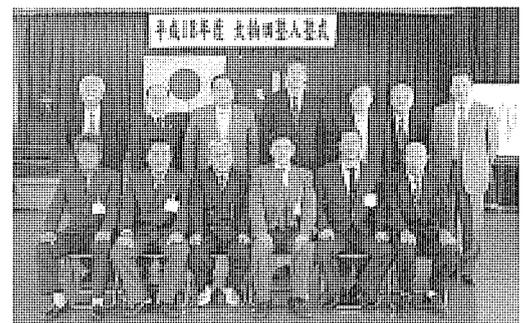
今回の先進地視察研修会を通じて、合併漁協における効果点や改善点など多くのことを研修することができました。明年4月1日の但馬地区漁協合併に向けて、この2組合での研修会が共済事業実施体制構築の一翼となることを期待いたします。



大輪田塾だより

平成18年10月3日、大輪田塾第2期生の入塾式がありました。塾長訓辞の後、第2期生を代表してJF坊勢所属の岡田俊也さんより「誓いの言葉」、そして第1期生を代表してJF育波浦の片山守さんから「歓迎の言葉」がありました。その後、兵庫県農林水産部農林水産局小池孝司局長、兵庫県信用漁業協同組合連合会秋武宏代表理事長からご祝辞を頂きました。

塾生の方々は、入塾式終了後早速、大輪田塾運営委員でもある、関西学院大学田和正孝教授の講義を受講しました。



第2期生のご紹介

所属組合	氏名	漁業種類
明石浦	井上 雅夫	底びき網漁業・のり養殖
林崎	小松 洋一	船びき網漁業・のり養殖
坊勢	岡田 俊也	底びき網漁業
由良町中央	平野 清次	潜水漁業
南淡	橋本 昌和	底びき網漁業
香住町	稲葉 貴之	小型ベニズワイカニカゴ漁業

主催講座の開催

日程	講座名	講師
平成18年 10月3日(火) 15:00~【終了】	漁業紛争を考える ~クジラの事例から~	関西学院大学 教授 田和正孝氏
平成18年 10月25日(水) 14:00~【終了】	最近の海の変化と 今後の魚の流通について ~我々はどう生き残るのか~	境港漁業調整事務所 資源管理計画官 上田勝彦氏
平成18年 11月29日(水) 13:30~	「資源管理型漁業」 「海の畑づくり」(予定)	兵庫県農林水産部 水産課各担当

2006年度 兵庫県生協大会を開催

10月11日(水)、兵庫県民会館9階ホールにおいて2006年度兵庫県生協大会を開催し、会員生協の組合員、役員など352名がとどいました。

第一部の記念式典は、姫路医療生協・福永裕子さんの司会進行で始まりました。まず、主催者を代表して浅田克己・兵庫県生協連会長理事が挨拶。続いて、兵庫県副知事・齋藤富雄様、神戸市長・矢田立郎様(代読 神戸市生活文化観光局生活文化部長・大森伸一様)より、それぞれ生協への期待をこめられたご祝辞をいただきました。その後、生協功労者表彰に移り、永年生協の発展に寄与した4名の役員に「兵庫県知事感謝」が齋藤副知事より贈られました。また生協業務に精励した27名の役職員に「兵庫県生活協同組合連合会会長表彰」が浅田会長理事より贈られ、会場の組合員さんと一緒に盛大な拍手で祝いました。

当日は、生協紹介コーナーを設け、地域生協・大学生協・医療生協・共済生協など分野ごとに活動を紹介しました。自己生産品のパンの即売会、珈琲の試飲をはじめ、食育の取り組みや食生活改善の取り組み、共済の取り組みをパネルで紹介しました。毎年大好評の医療生協による健康チェックコーナーでは、血圧測定・体脂肪測定・骨密度検査を実施、たくさんの方々が並び、パンコーナー、珈琲試飲コーナーとともに、あふれんばかりの参加者でいっぱいになりました。

第二部では、歌手の紙ふうせんによる「ふれあいトーク&アトラクション」をおこないました。懐かしい曲目もあり、参加者も演奏にあわせて歌ったり、手拍子を送ったりと一体感のある楽しい語りと歌のショーとなりました。



第18回近畿地区生協・行政合同会議 を開催しています

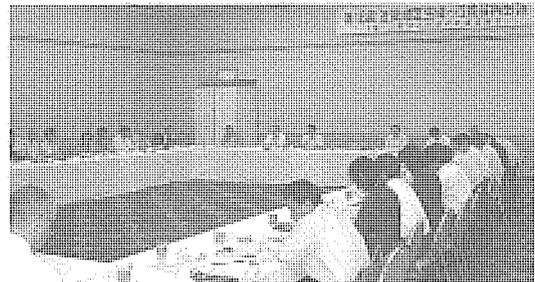
第18回近畿地区生協・行政合同会議が、8月31日(木)午後、和歌山東急インで開催され、厚生労働省をはじめ日本生協連、近畿地区2府5県(大阪、京都、奈良、和歌山、滋賀、福井、兵庫)の生協行政担当者および生協連役員合計47名が参加し、テーマに沿った報告と質疑が行われました。

今回の会議では、「安心して暮らせる社会づくりのための生協の役割と行政とのパートナーシップ」をテーマに基調講演と4つの実践事例交流がおこなわれました。

まず、冒頭主催者を代表して近畿地区府県連協議会・浅田克己代表(兵庫県生協連会長理事)が開会の挨拶をのべ、続いて開催地を代表して楠本隆氏(和歌山県環境生活部長)から歓迎のご挨拶をいただきました。

次に、厚生労働省近畿厚生局と日本生協連から、それぞれ挨拶と報告が行われました。厚生労働省近畿厚生局の江波戸一敏氏(厚生労働省近畿厚生局健康福祉部長)から生協運営に関するコメントがなされ、日本生協連・伊藤和久渉外広報本部長からは、全国の生協の概況と社会的課題について、生協法の改正についての現在の動きや、生協法改正要求案のポイントについて報告がなされました。

その後、基調講演「都市との交流・連携による新ふるさと創り」を和歌山県農林水産部農林水産政策局新ふるさと推進課 課長 西山彰彦氏よりご講演いただき、続いて、4つの実践事例交流として「くらしの安全・安心にむけて」「NPO法人消費者支援機構関西の取り組み」「社団法人ふくいくらしの研究所の取り組み」「日本生協連主催「たべる、たいせつフェスティバル2006」の取り組み」について交流が図られました。



<http://www.co-op.or.jp/jccu/>

平成18年度 兵庫県のり養殖技術研修会

平成18年
9月1日(金)

9月1日、兵庫県立農林水産技術総合センター水産技術センターにおいて、のり養殖技術研修会を開催し、のり養殖業に係る県下生産者ならびに関係者等145名が参加しました。

講師7名に次の各テーマに基づき講演していただき、9時30分から15時30分まで多岐にわたる内容で研修を行いました。

ビデオ鑑賞

講演

- ◆ 最近の播磨灘の動向
(兵庫県水産技術センター 主任研究員 堀豊)
- ◆ 水温予報システムの試行運用について
(社)日本水産資源保護協会 遠藤進
- ◆ 平成18年度漁期に向けての注意点と対策
(JF兵庫漁連 兵庫のり研究所 主任 川崎周作)
- ◆ ノリ養殖業構造調整競争力強化対策事業について
(JF兵庫漁連のり共販部専門課長 高浜司)
- ◆ ノリ養殖品種開発の現状について
(兵庫県水産技術センター 主任研究員 一羽恭介)
- ◆ 今後の海苔産業界の動向について
(海苔産業界情報センター 代表 藤井弘治)
- ◆ 中国ノリ漁場および入札風景等
(海苔産業界情報センター 記者 佐藤尚司)

本県のり養殖業は近年、大型プランクトン発生による色落ち被害や高水温による秋芽網本張り開始の遅れ、さらに外国産のり輸入枠拡大等による国際間の競争等、のり養殖業を取り巻く環境は年々厳しさを増しています。

この現況にいかに対応すべきか、今後の対策に向けての一助となる大変参考になる研修会でした。

地域の安全・安心を守ります JA兵庫六甲が「地域の安全・安心見守り活動」を実施！

JA兵庫六甲では平成18年度より、各行政・地元警察と連携し、組合員や地域住民が安心してくらす地域社会をつくるため、「地域の安全・安心見守り活動」を各地域で順次実施している。

取り組み

1. こども110番の店・車

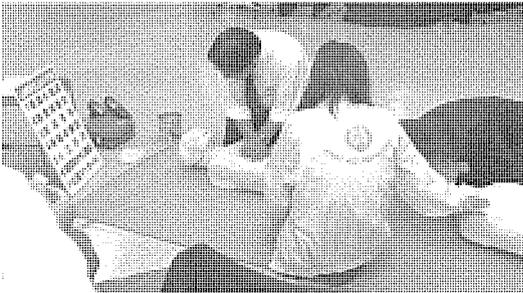
JA兵庫六甲の全事業所、全公用車にこども110番のステッカーを貼り、子どもたちの日常の様子を見守り、安全を守る。

2. 安全・安心パトロール

職員が業務活動を通じて、犯罪や災害を発見した場合、速やかに110・119番通報するなど、パトロールを行う。

3. 市民救命士の受講・AEDの設置

全職員への救命講習の受講と、AED（自動体外式助細動器）の本支店・農協市場館などへの設置を順次進め、組合員や利用者の急病に対応。また、高齢者への声かけなどもおこない、緊急時に対応する。



職員を対象とした救命講習会。
全職員の受講を順次進めている

収穫の喜びを消費者に…

JA丹波ひかみは、9月9日に神戸市などから消費者25名を招待し、稲刈り体験イベントを実施した。このイベントは自らの稲作体験により、消費者に農業の大切さを理解してもらおうとともに、丹波ひかみ産農産物への愛着をさらに深めてもらおうと、同JAが米の販売や野菜の直販を行っている（株）トーホーの協力により、5月の田植え体験に引き続き実施したもの。

黄金色に色づいた稲穂を前にして、参加者はJA職員から鎌の使い方など刈り取りの指導を受けた後、昔ながらの稲刈りに挑戦。自分達で田植えをした稲の成長を喜びながら、夢中で稲刈りを行った。「普段、自然とふれあう機会のほとんどない子ども達に、貴重な体験をさせることができうれしいです」と参加者は満足した表情を浮かべていた。

稲刈り終了後には、カントリーエレベーターで米が集



自分の手で刈った稲穂を手に
収穫の喜びを知る

荷される様子を見学したり、今年収穫されたばかりの新米を使ったおにぎりで昼食を取るなどで楽しい時間を過ごした。

JA丹波ひかみでは、今後もこうした活動を通じ、産地と消費者との交流を深め、丹波ひかみ産農産物の消費拡大をめざしている。

<http://www.zenchu-ja.org/>

平成18年度 兵庫県のり養殖安定対策協議会

9月13日、県立水産会館においてのり養殖に係る各JF・系統団体および県市町の担当者約70名が出席し、平成18年度兵庫県のり養殖安定対策協議会が開催されました。

本協議会は毎年この時期に開催され、来る漁期に向けての各設定事項について協議・決定を行う重要な協議会であります。

本年度は開会にあたり、当協議会のJF家島中村庄助組合長および兵庫県大谷和夫水産課長の挨拶があり、その後、事務局の進行のもと以下の内容について協議されました。

報告事項

- ・平成17年度漁期結果報告
- ・養殖およびのり共販に係る状況報告

協議事項

- ・平成18年度全国および本県漁期対策について
- ・平成18年度酸処理剤の取扱いについて

すべて、原案通り可決承認されました。

これからのり養殖は各種準備に追われつつ、いよいよシーズンを迎えます。

今年は、良いのりが出来る環境に恵まれますように…。

協議の様子

平成18年
9月13日(水)



行事予定

<変更になる場合があります>

JF兵庫漁連		
11月	1日(水)	辞令交付式(中会議室)
	8日(水)	第4回 職員組織活性化委員会 (中会議室)
	9日(木)	13:30~ 全漁連臨時総会(JAビル)
	10日(金)	15:00~ 乾のり契約更改説明会 (大会議室)
	14日(火)	15:00~ 3団体合同臨時総会
	22日(水)	13:30~ 漁協運動功労者表彰式・ 祝賀会(虎ノ門パストラル)
	27日(水)	理事会

JFぎよさい兵庫		
11月	2日(木)	13:00~ 理事会(中会議室)
	14日(火)	15:00~ 3団体合同臨時総会

JF共水連兵庫		
11月	2日(木)	14:00~ 運営委員会(中会議室)
	8日(水)	13:00~ 経営企画会議(東京)
	9日(木)	
	15日(水)	13:30~ 全国会議(コープビル)

基金協会		
11月	2日(木)	10:30~ 理事会(中会議室)
	13日(金)	13:30~ 保証審査委員会
	7日(水)	山陽・四国ブロック 専務参事会議(高知県)
	8日(木)	
	10日(金)	13:30~ 保証審査委員会(小会議室)

JF兵庫信漁連		
11月	6日(月)	農中資産精査
	10日(金)	
	8日(水)	JFマリンバンク中央本部 専門委員会
	9日(木)	13:30~ 全漁連臨時総会(JAビル)
	14日(火)	15:00~ 3団体合同臨時総会
	15日(水)	11:00 農中総代懇談会
	17日(金)	JFマリンバンク特別委員会 ・中央本部中間取りまとめに 係るブロック会議
	22日(水)	10:30~ 全漁連理事会 13:30~ 漁協運動功労者表彰式・ 祝賀会(虎ノ門パストラル)
	27日(月)	理事会

内海漁保		
11月	1日(水)	13:30~ 上半期監事会 (産業会館)
	9日(木)	14:30~ 漁船保険推進のつどい (東京)
	14日(火)	役員報酬審議委員会 (産業会館)
	30日(木)	中央会理事会(東京) システム担当者研修会 (東京)
	12月1日(金)	

但馬漁保		
11月	9日(木)	14:30~ 漁船保険推進のつどい (東京)
	30日(木)	中央会理事会(東京) システム担当者研修会 (東京)
	12月1日(金)	

漁港協会		
11月	16日(木)	15:30~ 漁港漁場事務担当者 連絡会議(富山)

ひょうご豊かな海づくり協会		
11月	28日(火)	13:30~ 理事会・評議委員会 (大会議室)

振興基金		
11月	8日(水)	13:00~ 兵庫県水産賞選考委員会 (県民会館)
	9日(木)	瀬戸内海水産公益法人 連絡会(松山)
	10日(金)	
	14日(火)	13:00~ 瀬戸内海環境保全協会 30周年記念講演会 (ラッセホール)
	28日(火)	11:00~ 理事会
	29日(水)	大輪田塾予定
	30日(木)	日本海公益法人担当者会 (富山県)
	12月1日(金)	

その他		
11月	6日(月)	15:00~ 兵庫 JCC 第2回幹事会 (県民会館)
	7日(火)	13:00~ 淡路水交会理事会
	12日(日)	但馬まるごと感動市 (但馬ドーム)
	13日(月)	
	14日(火)	15:30~ 播磨漁友会中間監査 (播磨漁友会館) 15:30~ 丸一よしのりをはげます会
	16日(木)	14:00~ 播磨地区職員協役員会 (姫路キャッスル)
	17日(金)	14:00~ 播磨漁友会役員会 (播磨漁友会館)
	17日(金)	全国農林漁業祭(東京)
	18日(土)	

12月9日 17:00より

神戸ポートピアホテルにて、自民党 青木幹雄参議院議員会長来たる。

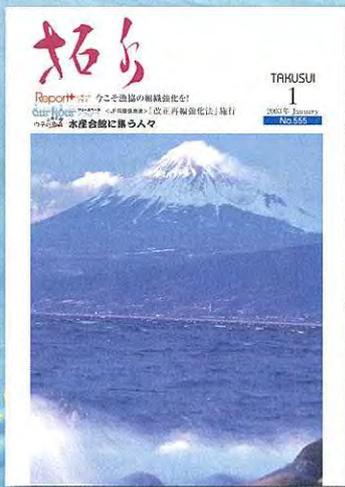
編集後記

古きをたずね、新しきを知る。600号を記念して10・11月合併号となった記念記事インタビューの中で、この言葉が頭に浮かびました。皆さんから頂いた50年分の記事の積み重ねは、まさに、「業界の宝石箱や〜」。

「温故知新」



拓水 発刊600号 50年のあゆみ



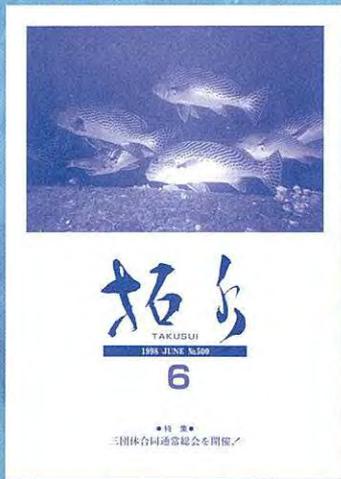
555号
2003年1月10日発行

内容が一新され、表紙がカラーになった。
プロのカメラマンによる表紙写真が
目を引く。



569号
2004年3月10日発行

元JF兵庫漁連職員浅野研吾さんの作品を、
表紙絵として3号連続で採用。



500号
1998年2月10日発行

8~12ページ程度のページ立てになり、
情報誌としてのボリュームが充実してきた。



400号
平成2年2月10日発行

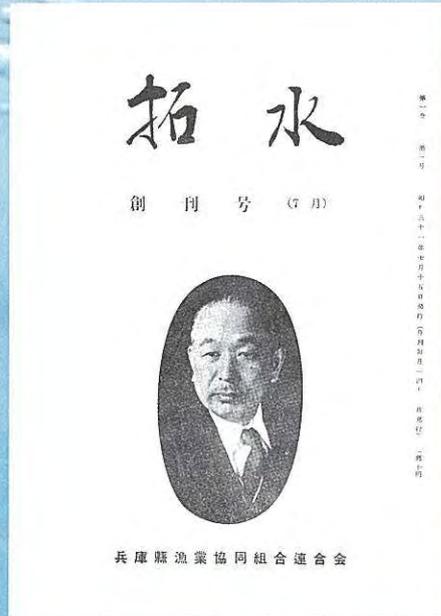
オフセット印刷になり、
編集にコンピューターが使われ始めた。

- **創刊号**
- 昭和31年7月15日発行
- 記念すべき創刊号は活版印刷で、
- B5サイズ12ページ。価格は10円。
- 書き手の心が伝わる内容だった。



101号
昭和40年1月30日発行

タブロイド判の新聞仕立てになり、
より幅広い情報を扱った。



拓水

創刊号 (7月)



兵庫縣漁業協同組合連合会

制作を通じて見る拓水

弊社は、この歴史ある拓水の編集に長い間携わってきましたが、今改めて、そのことを誇りに思うと同時に、不思議な縁を感じています。ご覧のとおり、紙面は時代とともにさまざまに形を変えてきましたが、読者の皆様によりよい情報をお届けするという姿勢は、今後も変わることはないと思います。拓水の編集・印刷に携わる弊社としましても更に技術を磨き、より充実した誌面づくりのための力添えができればと思っております。

(株)日光印刷出版社 代表取締役会長 小河 昭二

拓水 TAKUSUI
October 10・11 November

発行 財団法人 兵庫県水産振興基金

〒652-0844 神戸市兵庫区中ノ島2-2-1 TEL 078-681-3789 FAX 078-651-4687